

四三九



從四位勳四等法學博士鳩山和夫敘勳ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治四十四年十月三日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望印

内

閣

十月三日
正四位、海軍少将

三



從四位勲四等法學博士鳩山和夫敘勲ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治四十四年十月三日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望

内

閣

四十四 十三日

五

内閣總理大臣 生

賞勳局總裁



從四位勳四等法學博士鳩山和夫儀、
明治十八年四月外務權大書記官出
身以來數官ヲ歴任シ廿一年五月法
學博士ノ學位ヲ授ケラレ廿五年選
レテ衆議院議員ト為リ廿九年十二
月衆議院議長ニ勅任セラレ三十六年
外務次官ニ任セラレシカ幾モナクシテ

内閣

閣

罷ノラル三十七八年戰役ノ際衆議
院議員在職中勳四等旭日小綬章
ヲ授ケラル尚同人議員在職ノ傍ラ
法典調査會委員鐵道會議員日
英博覽會評議員生産調査會委
員法律取調委員會刑法起草委員
ト為リ明治四十年五月法律取調委
員及商法修正查委員會ヲ命セラレ
同法調査ノ傍ラ刑法施行法監獄法
ヲ調査シ四十一年十一月更ニ刑事訴

訟法改正主査委員ヲ命セラル、等其
盡力不勘就中明治十九年八月外
務省取調局長在官中長崎港ニ於テ
清國水兵暴行事件起リ彼我ノ死傷
亦不勘巷テ日清兩國ノ親交ニ大影響
ヲ及ホサントシ事態漸ク容易ナラサル
ニ當リ同人主査折衝ノ任ニ膺リ日夜收
收トシテ鞠躬精勵屢々内地ニ出張シ遂
ニ内地ニ於ケル兩國會議ノ節帝國委員
トシテ會同協議シ遂ニ円満ナル解決ヲ

内

閣

見ルニ至ル等ハ同人ノ功興テ多キニ居
リ候趣ニ有之候然ルニ今ヤ病氣危
篤ニ迫リ候由ニ付此際特別ノ譯ヲ以
テ舊功ヲ録セラレ勲三等ニ叙シ瑞寶
章ヲ授ケラレ度此段允裁ヲ仰ク

明治四十四年十月三日

外務大臣伯爵林

董



内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

元外務次官鳩山和文勲等陸叙ノ件別
紙之通致 上奏ノ間可然御取計相成
度此段申進也

外務省

勲三等旭日中授章

元外務次官
衆議院議員

從四位勲四等法學博士鳩山和吏

右者明治十八年四月

外務權大書記官に任せ

られ取調局長被仰付次々參事院外議官補に

兼任せられ更ニ翻譯局長心得被仰付し同十九

年二月廢官ト共ニ更ニ外務省取調局長兼外務

省翻譯局長に任せられ超エテ同年四月法科大

學教授に兼任せられ同年八月偶々長崎港

に於テ清國水兵暴行事件起り彼我ノ死傷

亦不尠惹テ日清兩國ノ親交ニモ影響ヲ及ボ

外務省

サントレ事態漸々容易ナラサルニ當リ今人即取

調局長トシテ主査折衝ノ任ニ膺リ日夜孜々

トシテ鞠躬精勵屢々同地ニ出張し遂ニ同地

に於ケル兩國會議帝國委員ヲ被命清國委

員ト會同協議し遂ニ圓滿ナル解決ヲ見ルニ

至リ更ニ倍舊ノ國交ノ敦睦ヲ見ルニ至レルモノ

全ク同人ノ功具多キニ居レルモノ有之ハ後明治

二十年更ニ法科大学教頭ヲ兼任し今二十一年

五月法學博士ノ學位ヲ授ケラレ今二十二年八月

現行法律規則調査委員ト爲リ条約改正

準備取調ニ盡瘁セシカ今二十三年一月依願
本官ヲ免セシ今二十五年選ハレテ衆議院議
員ト爲リ傍ラ法典調査會委員、鐵道會
議員被仰付起エテ今二十九年十二月衆議院
議長ニ勅任セシ今三十六年九月外務次官ニ
任セシカ今十一月依願本官ヲ免セシ爾
來衆議院議員トシテ立法審査ニ盡瘁シ
三十七八年事件ノ功ニ依リ勲四等旭日小
授章ヲ授ケラハ尚又議員在職中傍ラ日英
博覽會評議員、生産調査會委員トシテ

外務省

盡カ不尠且又明治三十九年六月九日法律
取調委員ヲ囑託セシ刑法起草委員トナリテ
其任務ヲ盡シ引續キ明治四十年五月二十日
法律取調委員會規則ニ依リ法律取調
委員仰付ケラハ及ヒ民法修正主査委員
ヲ命セシ同法調査ノ傍ラ刑法施行法、監
獄法ヲ調査シ今四十一年十一月三十日民法修
正主査委員ヲ解カレ更ニ刑事訴訟法改正
主査委員ヲ命セシ爾來專ラ同法調査
ニ從事セリ以上調査ニ係ル刑法刑法施行

法監獄法、商法中改正法律、非訟事件手
續法中改正法律等ハ何レモ公布ノ上施
行ヲ見ルニ至リタル等其功績時ニ顯著ナル
モノ有之ル處今ヤ病革マリ命旦夕ニ迫マ
リ付テハ如上ノ功績ヲ表彰被遊此際
特ニ頭書ノ通勲等陞叙相成ル様仕度此
段謹テ奏ス

明治四十四年十月三日

外務大臣伯爵林 董



外務省